

# 部落差別（同和問題）について考えよう

中学校第3学年 社会科（公民的分野）

（人権課題）  
部落差別（同和問題）

## 指導事例の説明

私たちの社会には、同和地区と呼ばれる地域の出身者であることなどを理由に、結婚を反対されたり、就職などの日常生活の上で差別を受けたりすることがあります。こうした差別の現状を正しく理解し、相手の立場に立って考えたり、歴史的背景や差別解消に向けた取組に目を向けたりすることは、差別のない社会を築くために重要です。

本事例は、部落差別（同和問題）について、生徒が自分にできることを主体的に考え、話し合い、表現する力を育成する内容となっています。また、授業の際には、力強く生き抜き、人権が尊重された社会の礎を築いたことに着目させるなど、明るい展望をもたせるようにすることが大切です。

※本事例は、中学校学習指導要領社会（公民的分野）「C 私たちと政治」における「（1）人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」にあたります。

## 本時の目標

- ・ 部落差別（同和問題）の原因や経緯、解消に向けた取組、課題等の追究をとおして、差別解消に向けて自分ができることについて考えることで、主体的に社会に関わろうとすることができる。

## 人権教育の視点

- ・ 身分制によって作られた差別意識が、現代においても依然として根強く残っていることで、様々な形の差別となって現れていることを理解することができる。（知性）
- ・ 結婚や就職等に際しての差別意識が今なお根強く残っているという問題や、インターネットを介した偏見や差別を助長するような情報の流布などの問題があることを押さえ、差別のない社会を築いていくためには、どのようなことが必要かを話し合い、表現することができる。（技能）

## 生かしたい生徒

※本事例における「生かしたい生徒」の文末にある【知性】、【技能】は、「人権教育の視点」との一貫性をもたせるという趣旨のもと記載しています。指導案作成の際に記載の必要はありません。

- ・ 生徒 A は洞察力があり、自分の考えを率先して発言することができる。全体共有の場で、生徒 A の発言を基に様々な形となって現れている差別の現状に触れることで、人権問題を正しく認識できる力を身に付けさせたい。【知性】
- ・ 生徒 B は、誰に対しても公平な態度で接することができる。話し合いの場で、生徒 B の考えを意図的に取り上げて全体に共有することで、互いの意見を尊重し合う雰囲気を作り、人間関係を築くための社会的な技能を身に付けさせたい。【技能】

## 人権教育の目標を踏まえた次の発達段階につなげるポイント

高校生の目標につなげていくために、インターネットを介した差別情報の流布などの新たな人権問題が顕在化してきたことを確認することで、部落差別（同和問題）のみならず、インターネット上の人権侵害などの様々な人権問題に対する理解を深めます。また、部落差別（同和問題）のない社会を築いていくために必要なことについて主体的に考える活動を取り入れることで、部落差別（同和問題）に対する理解を一層深め、人権が尊重される社会を築いていこうとする意欲と態度の育成につなげます。

展開

このような特性のある児童生徒、いませんか？  
【学習の流れがつかみにくく、全体の見通しがもてない】

特別支援教育の視点を踏まえた支援

	学習活動	・指導上の留意点 ◎人権教育上の配慮	資料・準備物
導入	1 部落差別(同和問題)について確認する。  2 本時の学習課題を確認する。  部落差別(同和問題)の解消のために、必要なことは何か考えよう。	・部落差別(同和問題)について知っていること、分からないことを全体で共有する。  ・共有した事項をもとに、本時の学習課題を設定する。	
展開	3 部落差別(同和問題)について調べるための視点について確認する。 例:「差別の原因」、「歴史的背景」、「解消に向けた取組」、「差別の実態」  4 確認した視点で、部落差別(同和問題)について追究する。 (1) 資料②を見る ↓ (2) 視点を基に調べる(教科書、インターネット等) ↓ (3) 調べた内容を書く  5 追究内容を共有し、自分たちにできることについて話し合う。 (1) 全体で共有する ↓ (2) 資料③を見る ↓ (3) 解決策を話し合う	・差別の原因や経緯、解消に向けた取組、課題等について確認することで、次時以降に扱う内容につなげる。 ・小学校の既習事項をもとに、共通点や内容に触れることで、様々な視点があることに気付かせる。  ・教科書の資料等を提示し、部落差別(同和問題)の実態について具体的に把握しやすくすることで、差別の実態に迫り自分事として捉えやすくする。 ・インターネットには誤った情報や偏った情報が存在していることに注意する。 ◎資料を基に、特定の地域出身や住んでいる場所を理由に、今でも差別を受けている現状について、共感的に理解できるようにする。  ◎追究内容を全体で共有した後、グループで話し合わせる。(知性) ◎お互いの意見を尊重した話し合いができるようにする。 ・途中で資料を提示し、識別情報の摘示等が身近な問題であることを再度認識させることで、解決に向けた意欲を高めさせる。 ◎インターネットを介した差別情報の流布などの問題があることを押さえ、差別のない社会を築いていくために必要なことについて、意見の共有を行う。(技能)	・資料①(令和7年度学習教材「人権の窓」戦後の取組スライド2,3,6,7,8,9,15,16)  ・資料②(「部落差別(同和問題)を解消しましょう」の啓発動画「誰か」のことじゃない。(部落差別(同和問題)編)2分14秒まで) ・一人一台端末  ・資料③(「インターネット上の人権侵害情報に関する人権侵害事件【識別情報の摘示】」)
ふりかえり	6 本時の学習を振り返る。	・本時の振り返りとして、学習課題について自分の考えをまとめ、全体で共有する。 ◎具体的で前向きな意見を取り上げ、それらを整理・価値づけすることで明るい展望をもてるようにする。	

本時の活動の流れを視覚的に分かりやすく示します。また、本時のゴールを伝えることで、見通しをもてるようにしましょう。

- (例)
1. 部落差別について
  2. 課題確認
  3. 調べてみよう
  4. 話し合い
  5. ふりかえり

活動内容の説明は短い言葉で具体的に示すと良いでしょう。

「調べる」「話し合い」について活動の流れを簡潔に示しましょう。

- (例)
- ・視点を選ぶ
  - ↓
  - ・調べた内容を書く
  - ↓
  - ・共有する
  - ↓
  - ・解決策を話し合う

ワークシートは活動の流れに合わせた形式のものを準備しましょう。

みんなの意見を、モニターやタブレット、ホワイトボードなどに視覚的に分かりやすく示して共有し、達成感をもてるようにしましょう。

□ 枠は、共感的理解及び明るい展望について示しています。

資料① 「令和7(2025)年度学習教材 『人権の窓』 戦後の取組」

出典：栃木県ウェブサイト（ <https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/jinken-mado07.html> ）



資料② 「部落差別（同和問題）を解消しましょう」

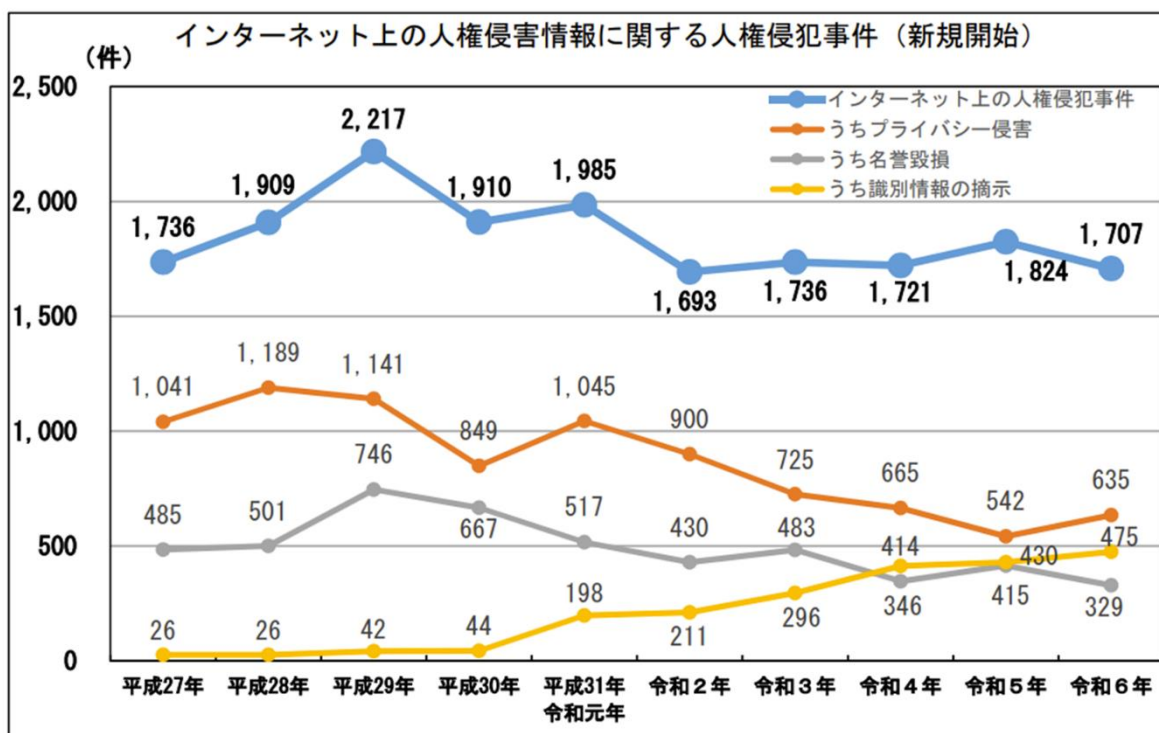
啓発動画 「誰か」のこと じゃない。（部落差別（同和問題）編）

※2:15～ 学習活動5の答例が表示されます。

出典：法務省ウェブサイト（ [https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04\\_00127.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00127.html) ）



資料③ 「インターネット上の人権侵害情報に関する人権侵犯事件」



出典：「令和6年における「人権侵犯事件」の状況について（概要）～法務省の人権擁護機関の取組～」

法務省ウェブサイト（ <https://www.moj.go.jp/content/001436208.pdf> ）



令和7年3月に法務省人権擁護局から示された資料では、令和6年において、識別情報の摘示事案が475件になるなど、年々件数が増加している状況がうかがえる。

この「識別情報の摘示」には、特定の地域が同和地区である、又はあったと指摘するものが含まれる。

部落差別（同和問題）に基づく偏見や差別意識は今なお残っており、インターネット上でも、特定の地域を同和地区であると指摘するような投稿や、その地域に関係のある人々に対する誹謗中傷や差別的な内容の投稿が問題となっている。

社会科 ワークシート例

年 月 日 ( ) 校時

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1. 部落差別(同和問題)について知っていることを書き出そう。

2. 本時の学習課題を確認しよう。

3. 部落差別(同和問題)を調べるための視点を確認して整理しよう。

4. 視点を基に部落差別(同和問題)について調べ、簡単にまとめよう。

5. 部落差別(同和問題)の解消に向けて、自分ができるところを書こう。

※参考になった級友の意見をメモしよう。

6. 本時のふりかえりとして、学習課題に対する自分の考えを書こう。